別紙

平成２２年度　森プロ事業実績：椿森プロ

（平成23年3月末現在）

		H19～21年度		H22年度				5カ年
		計画	実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		365	357	125	0	0%		516
作業道（m）		17,000	12,870	6,000	749	12%	作業路含む	24,000
間伐等	面積（ha）	225	117	125	33	26%	利用＋切捨	475
	材積（m3）	9,000	8,814	6,000	309	5%	支障木含む	21,000
備考								

19年度利用間伐等における所有者への還元額（補助金含む）　（仮精算額）1,500円／m3
20～22年度利用間伐等における所有者への還元額（補助金含む）　1,500円／m3（予定）

施業集約化の状況
- 森林組合が地元精通者の協力を得ながら森林所有者へ説明を行い、施業集約化を進めている。

施業プランの活用状況
- 精算時に施業プランの書式を用いて、森林所有者へ説明及び精算を行う。
  （19年度は仮精算済。森プロに関する全額を23年度中に精算を行う。）

施業プランナーの養成状況
- 地域総合プランナー：1名（H19実績）
- 森林施業プランナー：1名（H19実績）

作業道の状況
- 作業道開設目標：主伐期まで（30年以上）継続的に使用可能な作業道の開設。
  （幅員3．6mを原則として、100m以内の作業路や30度を超える急傾斜地では3．0mも併用）
- 作業道開設方針：①絶対的な安定路盤の整備、②細心にして大胆な集排水対策、③可能な限りのメンテナンスフリー。
- 作業道の開設は、安易に作りやすいところに作るのではなく、100年を通して一番利益の上がるところに「道をレイアウトする」。

- 伐採チームと掘削チームの連携により必要最小限の伐開幅で開設。
- レキと土とを適度に混合、徹底的な転圧作業を行う。
- 転石は路肩や盛土に埋設し、補強。
- 8tトラックが走行可能な幹線作業道を整備。
- 排水は分散化。雨が降ったときに雨水の流れを確認して排水位置を決定。
- 丸太組工法により道の崩壊を防ぎ、安全性を向上。

フォレスター研修

開設した作業道

作業システムの状況

・素材生産性：最大65～75m3／日・3人の生産体制を確立。
・木にさわらないことを徹底させることにより、コストダウンを実現。
＜メインシステム＞
チェンソー（伐倒、枝払い）→ グラップル（木寄せ）→ フォワーダ（搬出）→ チェーンソー
またはプロセッサ（造材）→ グラップル（積込）

伐材・搬出工程

チェンソーで作業道に向けて伐倒し、
グラップルで長材のまま積み込み。

フォワーダは、作業道の痛みが少なく、
急傾斜にも対応。長材を大量に運搬できる。

造材工程

プロセッサを導入。
さらなる生産性の
向上を目指す。

積込工程

造材・仕分けは広い土場（平場）で作業の安全性と効率性を確保。
造材担当者が、曲がりや市場動向に合わせて造材。付加価値の高い木材生産が可能。

その他

・プロジェクトの進捗状況や問題点等を定期的に話し合う「椿森林づくりプロジェクト運営委員会」を開催。（22年度は4回開催）
・林業関係者及び他業種からも幅広い人材交流を図るため、研修・視察の受け入れに積極的に対応。（森林組合、民間事業体、建設業者、林野庁など。）
・民間事業体が、国・県等のフォーラムで森プロの必要性について広報活動を実施。
（岐阜農林事務所主催「ヨーロッパ林業調査報告会」など。）

森プロの成果

・路網整備と高性能林業機械を組み合わせた長伐期・非皆伐による森林づくりの一つのモデルとして実証・確立。
・作業道開設により森林所有者の自己山林への意識を高揚。
・森林組合の利用間伐に向けた選木技術や作業道の設計監理技術の向上。

今後の課題

・森プロ1期生として、県内外への森林づくりの指導・啓発。
・23年度はプロジェクトの最終年度であり、森プロに関する事業費の全額を精算し、森林所有者へ利益を還元して、森林所有者の林業意欲を喚起する。